

主な未侵入病害虫の解説

学名: *Septoria citri* Passerini
英名: *Septoria spot*

分布地域 東南アジア、中近東、ヨーロッパ、北アメリカ、南アメリカ、アフリカ、大洋州

寄主植物 レモン、オレンジ、グレープフルーツなどのカンキツ類

病徴 葉および果実に斑点を生じる。葉の病徴は、はじめ径1～4mmのやや盛り上がった水泡状の黒点が現れ、その周囲にハローが生じる。のちに斑点の中央部が淡褐色を呈し壊死する。落葉後、病斑部に柄子殻を生じる。果実では、果実が緑色の頃に径1～2mmの小さなくぼみが現れる。これらは、外果皮あるいは油胞のみでそれ以上深くはない。やがてくぼみは、周囲が緑色、底部が淡黄色となる。果実が成熟するにしたがって、くぼみは中果皮まで進展し、赤褐色となり、径4～10mm程度になる。収穫時にあまり目立たなかった斑点が、貯蔵中に進展し、いくつかの病斑が融合して茶～黒色の不整形の汚斑になることもある。これらの病斑上に小さい黒点状の柄子殻を生じる。

病原菌 本菌は不完全菌類の一種で、柄子殻を生じる。柄子殻は、球形、黒色、大きさは直径50～80μmである。柄胞子は糸状、無色、大きさは14～18×2～3μm、隔壁は0～1である。PDA培地での菌

の生育は遅く、培養10日目で菌叢の直径が6～12mm程度であり、菌叢は緻密である。本菌は、腐生菌のように枯死した枝や葉に豊富に柄子殻を生じる。柄胞子は、はね水などにより、健全な葉や果実に感染する。本病は、一般に冷涼湿潤のときに発生し、降水量が例年より多い年は激発する。低温が感染を助長するかあるいは病徴を進展させるものと考えられている。

カンキツ類に寄生する*Septoria*属菌としては、本菌の他に*S. depressa*, *S. citricola*, *S. limonum* など10数種が報告されているが、これらのうちいくつかは形態的な差異はなくシノニムであると考えられている。とくに、オーストラリアとアメリカ合衆国の間では、両国に発生している病原菌の異同について植物検疫上の問題となっており、それぞれの病原菌の形態的な比較に加えて、最近ではアイソザイムパターンによる比較も研究されている。

被害 レモン、グレープフルーツ、オレンジなどは本病に侵されやすい。被害は葉よりも果実で甚だしく、り病果は商品価値をなくす。

防除法 冷涼湿潤な気候が予想される場合に、早期に銅剤などの薬剤散布を行う。樹上からの散水を行わない。



ヒメアカカツオブシムシ

学名: *Trogoderma granarium* Everts

英名: Khapra beetle

本種は、ヨーロッパでも麦芽の害虫として知られている。我が国でも1923年に鳥取県に、1964年に大阪府、東京都ほかに発生が認められた。1964年の発生は麦芽工場を源に、ビール工場に及んだが、これらは応急防除により根絶した。

我が国の輸入検疫では、ヨーロッパからの麦芽、中近東などからのナッツ類、香辛料などから発見されている。

分布地域 アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、アフリカ、オーストラリア (原産地: インド)

寄主植物 貯蔵穀類、種子など

形態 <成虫>雄の体長は、1.8~3.0mm。体幅は0.95~1.7mm。体の両側はやや平行に近い。体表面は、通常強い光沢を有し、淡い赤褐色である。頭部及び前胸背板は、しばしば暗褐色を帯び、時には黒色になる。翅鞘は単色であるが、不明瞭な2~3条の横の斑紋が出ることがある。触角は9~10又は11節で先端の5節は球桿状となる。雄の触角は雌のものより明らかに大きい。背面は、細かい毛に覆われる。背面の毛はこすれて脱落しやすく、この場合は光沢が強くなる。雌は雄に似るが、

全体に雄よりも大きい。<幼虫>体長は約5mm。体の背面は一様にクリーム白色が淡黄褐色で、まれに淡褐色で背板側縁が灰色を呈する。<蛹>裸蛹で終令幼虫の脱皮殻の中に入っており、体長は約5mm。<卵>産卵直後は乳白色だが日数がたつにつれて赤色を増し、黄褐色を帯びることもある。長径は約0.6mm。

生態 本虫の産卵前期間は、30℃・相対湿度75%で3~4日、成虫平均寿命は30℃の時雄で10日、雌で8日である。幼虫期間は条件が良ければ約50日であるが、条件が悪いと200日~4年近くを要するものもある。短期間のうちに個体数が増えること及び悪条件下でもごく少数が生き延びる能力があることから、貯蔵害虫として重要な位置を占める。例えば、高温低湿という悪条件下の麦芽工場でも生存可能という特性を備える。他のカツオブシムシが主として動物質を食するのにに対して、本種は植物質を好む。

また、本種は飛翔能力が無く、穀物倉庫や麦芽貯蔵所などの屋内に生息し、屋外には生息しない。

被害 貯蔵中の小麦、大麦、裸麦に直接被害が出る他、麦芽、玄米からも報告がある。

防除法 倉庫等の貯蔵施設の清掃、温湿度条件の管理、薬剤によるくん蒸等の総合的な対策が有効である。

